

平成25年度第1回教育改革 ICT 戦略大会運営委員会 議事概要

I. 日 時 平成25年4月19日（金）17:30～19:30

場 所 アルカディア市ヶ谷（私学会館）

II. 出席者 向殿担当理事、椎名委員長、安藏副委員長、濱谷副委員長、竹内委員、立田委員、波多野委員、田宮委員、太原委員、梅田委員、西村委員、松山委員、木村アドバイザー（事務局 井端、平田）

III. 検討事項

今回は今年度大会運営委員会の委員紹介の後、年間スケジュールを確認した上で、今年度大会のプログラム企画、大会当日の司会分担を行った。

1. 今年度大会プログラムの企画

(1) 大会テーマ

前年度で検討した大会プログラムの方針をもとに検討し、「大学教育の質的転換への実践」などの方向で仮に設定し、次回委員会で見直すことにした。

(2) 初日：全体会

まずはじめに、大会の開催日は外部の団体等の行事とも重なっていることもあり、各タイトルはインパクトのあるものにすべきとの意見から、それを心がけて設定することにした。

冒頭は大学改革の国の支援として、文部科学省から「学生の主体的学びの確立に向けた大学教育の質的転換～大学改革実行プランを踏まえて～」として取り組みを紹介してもらうことにした。

大会初日はインパクトのあるテーマや内容にするべきとの意見から、文部科学省に続く講演レベルのものが必要なため、「日本再生に向けた教育イノベーション」と題して、(株)ニチレイの浦野光人氏（中央教育審議会大学分科会委員）に産業界から求める大学改革について講演を依頼することにした。

その後事例を通じた教学マネジメントや教育の仕組みの提案を行うことにし、「教学マネジメント改革への試み」と題して、本運営委員会の椎名委員長（中央学院大学学長）より、中央学院大学でのカリキュラム改革について紹介し、教養科目の質保証を目指したカリキュラム体系化について創価大学より紹介いただくことにした。また、「学生の声を反映した教学改革」と題して武庫川女子大学より卒業生アンケートによる教育の見直しの取り組みを紹介いただき、その後、「学修ポートフォリオを活用した教育の取り組み」の紹介を帝塚山大学、大阪市立大学に依頼することにした。最後に私情協からの提案として「未知の時代を切り拓く人材育成を考える」として冊子「大学教育への提言」を踏まえて事務局より趣旨説明と5年先を見据えた教育改善モデルの経済分野の例を経済学教育FD/ICT活用研究委員会委員長より紹介することにした。

なお、次回の委員会で各タイトルや概要を最終的にとりまとめることにし、初日のプログラムの意図がわかりやすいよう、またインパクトを持たせるために、タイトル以外にキーワードもつけることを確認し、委員長と事務局で事前に案を作成しておくことにした。

(3) 2日目：テーマ別自由討議

前回委員会で初日プログラムに設定していた「ピア・サポート」は個別的な話題となるため、2日目の分科会テーマに移動することにし、午前は「A：アクティブラーニングのためのPBL（課題探求型）学修」と「B：ピア・サポートを活用した新しい学修支援の仕組み」、午後は「C：地域・社会との連携授業」、「D：教育・研究におけるセキュリティ対策」の計4分科会を実施することにし、各テーマの課題提起を事務局が探し打診することにした。

2. 大会当日の司会担当

初日の午前は濱谷副委員長、午後は安藏副委員長が担当し、2日目の分科会Aは竹内委員、高木委員、分科会Bは柴田委員、西村委員、分科会Cは立田委員、波多野委員、分科会Dは梅田委員、橋本委員が担当することにした。3日目発表は、関委員、服部委員、城島委員、田宮委員、

中田委員、足達委員、木村アドバイザーが担当し、人数が足りない場合は2日目担当の委員にも担当いただくよう事務局より個別に相談することにした。

3. 3日目発表の発表者確定スケジュール

公募による発表の締切を5月13日、その後、司会担当者に発表内容確認のため発表申込み内容を事務局より送付し、5月21日までに発表者を確定し、5月31日までにグループ分け作業を行うことを確認した。

4. 次回委員会

次回は6月4日（火）に開催し、開催趣旨、各講演等のタイトル・概要（説明文）、キーワードを確定することにした。

以上